

特集

1

助成事業

熊本地震 緊急助成を ふりかえる

2016年4月の熊本地震発生を受けて、ベネッセこども基金は、同年5月9日より緊急助成の公募をスタートしました。随時審査を行い、応募数83のうち38事業に助成を実施しました。選考委員の村上徹也さんと共に、当時をふりかえりつつ、緊急時の助成のあり方について、改めて考えます。

熊本地震で被災した子どもの支援活動助成

応募期間：2016年5月9日～6月10日

助成期間：熊本地震発生～2017年3月31日

受付方法：メール、FAX、郵送

助成金額：1件50万円以内（総額2,000万円）

審査：選考委員会設定の審査基準に従い、随時書類審査

緊急時に有効な助成のあり方

—— 我々のような団体がどういう役割を果たすべきかを考え、「緊急助成」についてご相談したのは、地震直後でした。

当時はまだ私も現地に行けず、情報を集めている段階でした。子どもの中でも特に重い病気の子もなど、日常的にサポートを受けている子どもたちが避難所に入ることは非常に難しく、サポートする団体が費用面も顧みず、すでに現地に行っているという話を聞いていました。

日ごろ困っていない子どもでも、学校は閉鎖され、食事も日常通りには食べられないなど、とてもストレ

スフルな環境なので、支援が必要です。しかし、災害復興支援全体の中では、子どもの支援は、優先順位が低くなってしまいますので、子どもに焦点を当てる活動は十分に意味があると思いました。

事前に計画的に予算を立て活動することが困難な緊急時には、通常の選考方法ではなく、タイムリーに助成を出すことができれば、有効な支援になります。そのため、1件あたりの助成額は少額にし、審査を簡便にするためのアドバイスをしました。ゴールデンウィーク明け早々に募集を開始できたことは、非常に迅速かつ的確に準備を進めた結果だと思っています。

すでに接点がある団体とのネットワークをベースに

—— 現地の情報が把握できない中で、本当にニーズがあるのか、適切な募集タイミングはいつかなど、いろいろな迷いもありました。

当初は、緊急に助成をするといってもどれくらい申請していただけるかわからない不安があったと思います。そこで、これまでの助成でつながりのある団体に、検討中の「緊急助成」などの計画を伝え、感触を確認してみることを提案したのです。すでに信頼関係のある団体を基盤に始めていくこと、また、平日頃子どもの支援をしている団体に、全国規模で働きかけをすることで、活動を活性化できるのではないかとお話し

しました。

—— 緊急時においては、実効性のある活動になるのかの判断が難しいとも感じました。

緊急時には、これまで実績がない領域や地域で活動する団体も増えます。そのような場合でも、現地の団体や自治体と連携していて、さらに連携先が実績のある所であれば、有効な活動につながりやすいだろうと判断ができます。災害のときは、支援したいという気持ちが先に立ちすぎてしまうものなので、フィルタリングの方法の一つとして、連携先団体を確認することが有効だと思います。

熊本で得た知見やつながりの蓄積を

どの災害でもそうですが、手がつかなかった所が徐々に更地になり、一見落ち着いたように見えますが、一人ひとりの経済再建でいうと、まだまだこれからがスタートです。ただし、これからのニーズというのは、子どもに焦点を当ててというより、広くいえばコミュ

ニティーの再建となります。

ですので、ベネッセこども基金としては、今回の緊急助成で得た知見、ノウハウを整理し、今後助成をする必要があったときに備えて、蓄えておくことが大切だと思います。

村上徹也さん

日本福祉大学 全学教育センター 教授
サービスラーニングセンター 運営委員
立教大学理学部卒業(1982年) 日本
青年奉仕協会事業部長、米国ポイント・
オブ・ライト財団研究員、日本福祉大
学非常勤講師(2009~2011年) など
を経て現職。市民社会コンサルタント

(2004年~)等を兼務。トヨタ財団、
パナソニック教育財団の被災地の子
もたちの学習支援共同助成における助
成活動アドバイスや現地視察評価、日
本財団助成対象子どもの貧困対策事業
の外部評価など経験多数。



CLOSE UP

助産師会ならではのノウハウとネットワークを生かした災害支援を行った、日本助産師会 岡本喜代子さんに、支援の様子やそこから得られた今後の活動への決意をお伺いしました。

助成事業名：

「助産師による避難所巡回」「母子向け専用避難所の運営」



公益社団法人
日本助産師会
前会長

岡本喜代子さん

日本助産師会：助産師独自の職能団体として、1927（昭和2）年に設立された日本産婆会が前身。1955（昭和30）年に社団法人化し活動を展開。現在の会員数は約10,000人。出産の手伝いだけでなく、自然な妊娠・出産の経過や母乳育児を大切

にし、専門的な知識に基づき、母子やそのご家族の方々のニーズに即した、安全で快適なケアの提供に努めている。また、子どもたちへのいのちの教育、性教育をはじめ、女性の一生のライフサイクルも支援している。

地域の助産師による避難所巡回

日ごろから熊本市、益城町、西原町などで訪問指導に従事している25名の助産師が、平時の活動地域内にある避難所や大型施設の駐車場等を巡回し、妊産婦や乳幼児のケアや育児相談を実施するとともに、衛生用品や育児用品の支援物資を届けました。

ケアや相談の一例をあげますと、ライフラインの喪失により乳幼児の保清ができなくなったことで、臀部や陰部の発赤、おむつかぶれ、女兒の排尿痛などのトラブルが見られましたので、洗面器1杯のお湯で行うことができる清拭とおしり洗いのスキンケアの方法を伝えました。

その後、熊本市立砂取小学校避難所に「ママと赤ちゃんのスペース」を常設することができ、助産師のケアや育児相談を受けられるという情報をSNSなどで知った母親たちが集まってきてくれました。

阪神淡路大震災をきっかけに

阪神淡路大震災から、災害時の対応について整備し始めました。災害時のマニュアルも用意していたので、東日本大震災の際も、企業などとの連携もスムーズに行うことができ、頼りにされる存在となりました。マニュアルには、自分の地域で災害が起きた場合、近県で起きた場合など、ケースに応じた対応法が書かれています。もちろん、訓練も定期的に行っています。

実は東日本大震災で得た教訓として、助産師情報の定期的な確認・更新の仕組みを整えていたので、熊本地震のときにも、助産師の安否確認がスムーズにできたことはよかったです。現在は、臨床心理士をお願いして、熊本地震の際に緊急活動をしてくださった助産師たちのケアも行っています。

災害支援の要は資金と仕組み

目の前の母子にできるだけのことをしたいと思っていますので、資金面は後になってしまいがちです。助産師を守るためにも、資金調達は常に課題でした。その点、ベネッセこども基金は、すでに活動を開始した事業や終了したものでも応募できること、スピーディな審査をしていただけたことはとてもありがたかったです。

今までの災害支援の経験を生かして、母子と女性に配慮した避難所の運営や災害時母子福祉避難所の設置推進、災害時における助産師・助産所活用の仕組み構築について、国や行政に働きかけてまいり所存です。今後ともよろしくお願いたします。



赤ちゃんの力が抜けきれておらず抱きづらいということで、ほくし方を伝えている。

助成団体一覧

※3回に分けて助成を実施 各回50音順

※活動地域が広範囲であるなど、特定できない場合は熊本県としています。

団体名	所在地	申請事業名	活動地域
第1回決定分 助成事業一覧（6月2日発表）			
一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN	東京都	「熊本地震」で被災した子どもの支援活動助成	益城町・南阿蘇地区
特定非営利活動法人 アレルギーを考える母の会	神奈川県	避難所等で食物アレルギーの子どもの誤食事故から守る「災害時用ビブス」を配布・活用する事業	熊本県内
特定非営利活動法人 絆プロジェクト2030	東京都	積み木&絵本・笑顔プロジェクト2016	熊本県内
特定非営利活動法人 くまもとスローワーク・スクール	熊本県	熊本地震益城町就学前母子ケアプログラム	益城町
子どもの心と身体の成長 支援ネットワーク	東京都	親子遊びの広場	熊本県内
特定非営利活動法人 ななうらステーション	熊本県	笑顔の花を育もう	益城町・阿蘇地区
特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会	大阪府	クリニックラウン熊本支援事業	熊本県内
公益社団法人 日本助産師会	東京都	熊本地震被災母子支援活動（助産師による避難所巡回）	熊本市、益城町、西原町
公益社団法人 日本助産師会	東京都	熊本地震被災母子支援活動（母子向け専用避難所の運営）	熊本市
特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	東京都	くまモンプロジェクト～小児病棟で病気や治療と向き合うことを応援しよう～	熊本県内
よりそいの花プロジェクト	石川県	益城町幼児・児童の心のケアプロジェクト	益城町
第2回決定分 助成事業一覧（6月16日発表）			
特定非営利活動法人 アトピッ子地球の子ネットワーク	東京都	熊本地震アレルギー患者・災害弱者支援活動	熊本県内など
特定非営利活動法人 いじめ対策プロジェクト	鹿児島県	避難所や仮設住宅で過ごす子どもや親の心のケアを行う事業	熊本市など
特定非営利活動法人 instrument for children	東京都	healing mind project 被災地の子供達の心を、アートを通じて表現したり聞いたりする事で心のストレスを吐き出させ、癒し明日への希望に繋げるプログラム	山都町
くまもと音楽復興支援100人委員会	熊本県	ケアコンサート（音楽の吹き出し支援）の実施	熊本県内
一般社団法人 子どものエンパワメントいわて	岩手県	「学びの部屋くまもと(仮称)」応援プロジェクト	益城町
特定非営利活動法人 さくらネット	兵庫県	益城町の学校を応援！安心と安全を取り戻す機会づくり～子ども、保護者、教職員を対象とした心のケア・防災教育プログラム実施～	益城町
公益財団法人 ジョイセフ	東京都	母と子の不安とストレスを癒す交流の場の提供	熊本県内
公益財団法人 ジョイセフ	東京都	産後うつ病の疑いのお母さんと新生児の訪問カウンセリングケア	熊本県内
特定非営利活動法人 人材育成支援センター	熊本県	熊本地震救援活動・天草ショートステイ被災地ママ受入事業	熊本県内
公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン	東京都	熊本地震で被災した中学生・高校に対する学校外教育クーポン提供事業	熊本市、益城町、西原町、南阿蘇村など
公益財団法人 日本YMCA同盟	東京都	熊本YMCA指定管理受託先である益城町総合運動公園内避難所および周辺における子ども向け、プレイパークおよびプレイルームの運営	益城町
一般社団法人 MMIX Lab	宮城県	GAMADASE ART PROJECT_がんばれ熊本！学習支援	八代市、宇城市、氷川町など
よかたま市民ネットワーク	熊本県	ココロとカラダのケアサポート事業	熊本市など
第3回決定分 助成事業一覧（6月29日発表）			
一般社団法人 あいむあーす	熊本県	里づくり	熊本市
Upple	福岡県	益城町と北九州のこどもたちの笑顔をつなぐプロジェクト「まじきたKIDS CAMP」	益城町
特定非営利活動法人 いるかねっと	福岡県	熊本地震後～2週間までの小学校避難所運営の状況を通して学校における災害対策を考える	熊本市
特定非営利活動法人 カタリバ	東京都	益城町立益城中学校における学校再開支援	益城町
特定非営利活動法人 キャンナス	神奈川県	熊本被災地、子供と親の笑顔あふれる心のケア	益城町
公益社団法人 こども環境学会	東京都	被災保育園（幼稚園）の保育環境正常化のための緊急アドバイス支援	益城町、御船町、熊本市
一般社団法人 コミュニティ・カウンセラー・ネットワーク	神奈川県	「自分でできる、お互いのできる、ずっとできる心のケア」教育	熊本市
特定非営利活動法人 鍼灸地域支援ネット	滋賀県	地震ストレスにて情緒不安定な就学前児童に対する小児はりと保護者への鍼灸マッサージ活動	熊本市、益城町、宇城市、御船町、西原村
特定非営利活動法人 スポーツクラブ・エスペランサ熊本	熊本県	肥後っ子支援活動事業	氷川町・宇城市・八代市
一般社団法人 体力メンテナンス協会	東京都	「熊本地震」で被災された方への産後トータルケアプログラム（出産後に不安定になっている、ママの心と体をトータル的にケアし、支えるプログラム）	熊本市
寺子屋カフェ	熊本県	こども食堂「寺子屋 & ママさん爆睡カフェ」の定期開催	熊本市
なないろネットワーク熊本	熊本県	益城の小・中学校の子どもたちへの支援（学習支援及び必要な備品や物資、グランドピアノなどを届けよう）	益城町
はぐくみ・コミュ	熊本県	居場所づくりによる子どもと保護者等の心身のケア	熊本県
特定非営利活動法人 NPOホットライン信州	長野県	熊本地震で被災した子どもらへの支援活動	熊本市

※被災地の環境変化の影響を受け、申請事業の未実施・縮小などが生じたことによる助成金の返納もありました。